





## 「20世紀には泣きたいことがたくさんあった」

この物語は音楽を通して語られます。高く響きわたるオペラから、ジブシーたちのリズムカルな躍動まで。音楽は、移民や旅を続ける者にとって、自分が誰で、どこから来たかを思い出せる“魂”です。そして歌う声は、他の手段では表現できない力を持ち、日常の言葉よりもくっきりと心の叫びを映します。心を通わせたい、痛みを乗り越えたい、喜びや愛が欲しいという心の訴えを。20世紀には泣きたいことがたくさんありました。私はこの映画が、沈黙を強いられた、そして今もなお沈黙せざるを得ない人々の「声」になることを、心から願ってやみません。

—— サリー・ポッター

クリスティーナ・リッチ

ジョニー・デップ

ケイト・ブランシェット

ジョン・タトゥーロ

豪華オールスター・キャストで贈る一大ロマン

いま少女は海を越える。

かすかに耳に残る父の子守歌をさがして。

ロシア、ロンドン、パリ、ニューヨーク…激動の時代、戦乱に揺れる国々。

「お父さん あなたはどこにいるのですか」

運命の男。運命の愛。また逢う日まで振り向かない、私の物語が今始まる。

かすかに耳に残る父の子守歌をさがして…。

「タンゴ・レッスン」「オランダ」で世界的に名を馳せた女性監督サリー・ポッターの待望の最新作が完成した。

クリスティーナ・リッチ、ジョニー・デップ、ケイト・ブランシェット、ジョン・タトゥーロという、豪華スターの夢の演技が実現し、個性をぶつけ合う。さらに今夏人気沸騰中のジブシー・バンド“トラフ・ドゥ・ハイドワークス”が特別出演し、ジョニー・デップと共に欲望と歓喜に満ちた歌と演奏を披露している。

そして、劇中に登場する名オペラの数々！ プッチーニの「トスカ」、ヴェルディの「トロヴァトーレ」、パーセルの「ディドとエネアス」…中でもサリー・ポッターがこだわったテーマ曲、「カルメン」で御馴染みのビゼーの代表作「真珠探り」のメイン楽曲「耳に残るは君の歌声」が感動を一層盛り上げる。



2000年ヴェネチア国際映画祭コンペティション正式出品  
第14回東京国際映画祭・特別招待参加作品

クリスティーナ・リッチ「バフファロー66」「スリーピー・ホロウ」  
ジョニー・デップ「ショコラ」「シザーハンズ」  
ケイト・ブランシェット「エリザベス」「リバー」  
ジョン・タトゥーロ「愛のエチュード」「バートン・フィンク」  
ハリソン・ディーン・スタントン「ハリ・テキサス」「ストレイ・ドーター」  
クロウディア・ランダー＝デューク  
バブロ・ベロン「タンゴ・レッスン」  
オレグ・ヤンコフスキー「ノスタルジア」「鏡」

監督・脚本・音楽プロデューサー：サリー・ポッター「タンゴ・レッスン」「オランダ」  
製作総指揮：ティム・ビーヴァン&エリック・フェルナー「プリジット・ジョーンズの日記」「ロレリ大尉のマンダリン」  
製作：クリストファー・シェパード「タンゴ・レッスン」「オランダ」  
撮影監督：サッシュャ・ウエイズ「去年マリエンバートで」「昼顔」「コックと泥棒、その妻と愛人」  
美術：カルロス・ロビンソン「ベティ・ブルー 愛と激情の日々」

テーマ曲ビゼー「耳に残るは君の歌声」(「真珠探り」より)  
挿入オペラのヴェルディ「見よ、恐ろしい炎を」(「トロヴァトーレ」より)  
プッチーニ「真珠探り」(「トスカ」より)  
パーセル「ディドの悲しみ」(「ディドとエネアス」より)

音楽監督：オズワルド・ゴリッチ  
テクニカル：サルヴァトーレ・リチーノ  
音楽監製：トラフ・ドゥ・ハイドワークス、クロニス・カルテット、イヴァ・ピトヴァ、フレッド・フリス、カティア&マリエル・ラベック

2000年イギリス・フランス合作/ストーリー・ディオ・キャナル・ユニヴァーサル・ピクチャーズ提供/ワーキング・タイトル・フィルムズ・アドヴェンチャー・ピクチャーズ作品  
カラー/97分/Dルビデジタル、DTS、SDDS/字幕：戸田奈津子/サウンドトラック：ソニー・クラシカル/原作本：角川書店BOOK PLUS刊/提供：アズミック・エース エンタテインメント、フジテレビ、角川書店/配給：アズミック・エース

## 耳に残るは君の歌声

A SALLY POTTER FILM  
THE MAN WHO CRIED

お正月・日本公開決定!

12月 拡大ロードショー

— 壮大なロマンが幕を開ける —

渋谷東急本店ヨコ 03 (3477) 9264  
Bunkamura ル・シネマ  
定員制・入替制

日比谷・東宝映画街 03 (3591) 1511  
シャンテシネ  
入替制

前売鑑賞券1,500円発売中!  
【当日料金：一般1,800円のところ】  
劇場窓口のみ先着特典!  
あなたの流した涙を永遠にしてください  
アンティーク“涙壺”